

# 小学校英語活動と中学校英語教育の連携

## —3年間の調査・研究の結果から—

山田王代 (YAMADA Kimiyo)

勝浦町立勝浦中学校

### 要約

平成23年4月より公立小学校では高学年において外国語活動が本格的に開始した。開始に伴い、小学校外国語活動と中学校英語教育との連携が必要だと考えられる。

本報告は、本校区が取り組んだ小・中の連携のかたち・調査・研究・結果を報告したものである。小学校での外国語活動が開始された現在、小学校英語活動と中学校英語教育との連携の重要性への示唆を提示する。

(キーワード：小・中連携，英語教育改善，小学校外国語活動)

### 1. はじめに

本校区(勝浦町)では、平成21年度に、文部科学省の「英語教育改善調査研究事業」の指定を受けた。平成22年度からは、文部科学省指定「教育研究開発事業」を受けた。本事業に取り組むことにより、本校は他の公立校に先駆けて、小学校への英語活動の導入を考慮したうえでの小学校・中学校の連携について調査・研究にあたることとなった。

最初に本校区が小・中連携の研究を始めることとなった本事業について説明をする。

#### —本事業の目的—

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①小学校における英語教育の適切な開始年次，授業時数の在り方等の教育課程上の枠組みの検討のためのデータ収集</li><li>②小学校において英語教育が早期に実施された場合の中学校への円滑な移行のための中学校における教育内容の研究</li></ul> |
|---|

以上の2つが目的として示された。そこで、学校現場としては、この研究に際し、小学校では計画的に外国語活動(英語活動)を実施していくこと(実施できるようにしていくこと)、中学校ではこれから小学校で英語活動を経験した生徒が入学してくるこ

とを考慮して、英語教育の改善にあたることが調査・研究の柱であると確認した。

#### —本事業の特色—

- ・教育課程の編成
- ・英語教育コーディネーターの存在

教育課程の編成において小学校では、事前に「教科型」か「外国語活動型」かの選択、及び、開始学年についての選択がある。本校区では小学校3年生からスタートする「外国語活動型」を選択した。

また、中学校では選択教科を1年時より「英語」とし、実質、週4時間の「英語」の授業時数を確保することとなった。

本事業では、英語教育コーディネーターが存在する。この役は中学校英語教員が勤めることとなった。そこで実質的に中学校英語教員は中学校での調査・研究と小学校英語活動の研究、小・中連携のコーディネートという3役を行うことになった。

#### —コーディネーターの役目—

本事業の実施には、

- ・小学校で英語活動の実施・中学校で英語教育の改善
  - ・それらについて各学校で調査・研究を進めていくこと
  - ・小学校・中学校教員がともに小・中の連携について勉強し、実践していくこと
- 以上の3点が必須となる。そこで本校区では、コーディネーターの役目として

- ・小・中各学校での調査・研究をともに考え、実践していく
- ・小・中学校が互いの教育の理解を深めるための手助けをする
- ・小学校・中学校の連携のための橋渡し役
- ・2小学校の小・小連携の橋渡し役(本校には2つの小学校から入学してくる)
- ・各種研修会の企画・学識経験者や参考図書を紹介

以上の5点を考え、実践していくことにした。初年度においては、特に小学校で担任主体の英語活動の実施と、2小学校が連携できるようなという点に重点をおいた。

では、小・中の連携に取り組むこととなった本校区、勝浦町について説明をする。

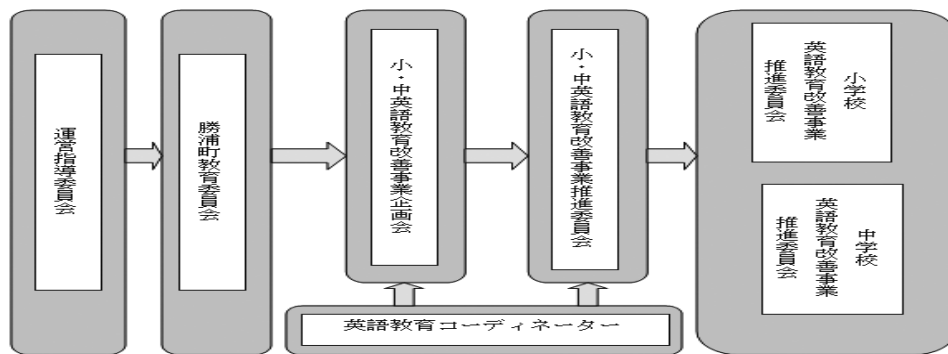
#### —勝浦中学校区(勝浦町)—

勝浦町は徳島県東部に位置し、清流勝浦川とみかんの産地として有名な自然豊かな町である。町内に学校は本校、勝浦中学校と生比奈小学校、横瀬小学校の3校がある。2小学校とも1学年は単学級制である。児童・生徒の家庭生活に目を向けると、3世代同居の大家族が多い。しかし、少子化の影響で、子ども数が少ないため、どの子ども家庭でもとても大切に育てられている。そのため、コミュニケーションの様子を観察すると、自分の意見は主張するが、他を思いやり、しっかりと相手の意見に耳を傾けることが十分にできているとは言い難い。また、初めて出会う人とのかかわりには戸惑いも見られる。

## 2. 勝浦中学校区の研究組織

調査研究に取り組むにあたり、最初に取り掛かったのは研究組織の編成である。本校区は1中学校2小学校の区域のため、研究組織の編成は重要なものであった。

定期的に英語教育改善事業企画会・英語教育改善事業推進委員会を開き、常に3校間の情報交換ができるようにした。また、同一校区内の2小学校の取組内容に大きな違いが出ないように、推進委員会についてはほぼ毎月、多いときは月2回程開き、2校間で使用する教材や活動・研修の相談を密にした。

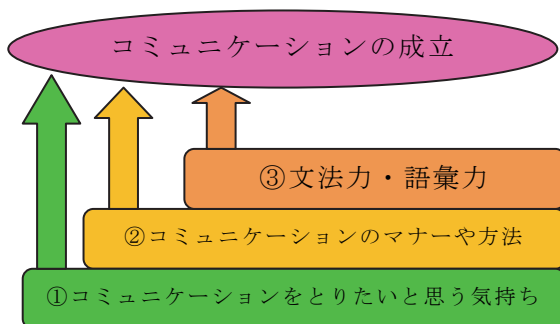


一図1 勝浦中学校区 英語教育改善調査研究事業 組織図一

## 3. 研究主題

次に取り組んだのが、研究主題の設定である。連携を図るにあたり、共通の研究主題を設定し、取り組んでいく必要がある。そこで、最初に各学校の目標を学習指導要領で確認をすることにした。

小・中2校の目標を比べてみると、文言は大変似ている。しかし、小学校では「コミュニケーション能力の素地を養う」と表されているが、中学校では「実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」となっていること、また、中学校の外国語を英語とした場合、さまざまな技能の学習について「～できる」という表現が目標として使われていることを確認した。



一図2 勝浦中学校区コミュニケーション力一

次に本校区の小学校・中学校が連携して目指す「コミュニケーション力の育成」について考えることにした。そこで、コミュニケーションを成立させるために必要な力、学習を段階的に考えていった。コミュニケーションを成立させるには、まず、①コミュニケーションをとりたいと思う気持ちが必要である。

そして、次の段階では、②コミュニケーションのマナーや方法を知る必要がある。そ

これから、より一層コミュニケーションを発展させ、正確にするためには、③文法力や語彙力が必要になると考えた。この考えを図案化し、出来上がった図を勝浦中学校区コミュニケーション力と名づけた。(図2参照)

次にこの図を基本に小学校、中学校の発達段階を考慮し、役割分担をした。小学校では①、②の学習が可能であり、中学校では①、②の学習に③の学習もプラスされると考えた。

ここで小学校での英語活動を「たのしい英語」、中学校での英語学習を「確かな英語」と名付け、小・中2校の学習の違いを意識して、本校区の研究主題を「小学校英語活動と中学校英語教育の連携―たのしい英語から確かな英語への転換―」とした。

#### 4. 目標ポイント

研究主題が決まり、英語教育・英語活動を実践していく中で、毎日の指導において具体的な目標ポイントの必要性を感じた。そこで今一度、勝浦中学校区コミュニケーション力の図(図2参照)と児童・生徒の現状を見つめ、目標ポイントを作成することとした。コミュニケーション力育成で各学校が担う学習は、小学校では「体験的な学習」形態、中学校では「座学」形態が常となる。これは生徒にとって大きな変化であり、大切な転換である。この重要な転換をスムーズに行うことが本校区の小・中連携の大きなポイントである。そのために必要なものは何か、本校区の児童・生徒の実態を考えると、「聞く・聴く」力の育成がとても重要であると考えた。コミュニケーション力において、相手の話(気持ち)をしっかりと聴けることは他者とのコミュニケーションでとても大切である。また、特に学校で大勢の中の一人として相手とコミュニケーションする必要がある授業へ参加するには必要不可欠な基本の力である。そこで、まず「聞く・聴く」態度・力の育成を目標ポイントにして小学校・中学校でともに取り組んでいくこととした。

#### 5. 取組

小学校では、英語活動を実践していくことが必須である。英語活動の目標から考え、本校区では、担任中心の英語活動の実践を初年度開始より行うこととした。そのため、①実践のために必要な英語活動に関する理論や実践方法の研修と②調査・研究に関する研修を行いながら、英語活動に取り組んでいくこととした。

中学校では英語授業の改善にあたり、以下の考えで進めていくこととした。

小学校へ英語活動が導入されることを考慮しての英語教育改善である。まず、①小学校英語活動を理解する必要がある。また、英語教育を改善していくには、②指導する生徒の実態を把握し、現在抱えている問題点・課題点を知る、そして、それらのための取組の準備・取組実践が必要である。この2点を大きな柱とし、研修・研究会を通して、調査・研究を進めていくこととした。

##### (1) 生徒の実態調査

生徒の実態調査のため、中学校では、アンケート・テストをそれぞれ年間6回実施した。

また、教師の観察も細かく行った。これらから、本校の生徒は、根気強く学習することは、嫌いであるが、英語を使えるようになりたいという思いはだんだん強くなっている。また、「たのしい英語」と「確かな英語」の違いは感じている、ということがわかった。これらの結果をもとに取組を考えた。(表1参照)

(2) 課題点・研究点への取組準備

—表1 課題点・研究点への取組準備—

目的	取組
「たのしい英語」と「確かな英語」の連携のために	・週1回のブリッジレッスンの実施 (英語活動的要素を取り入れた授業形態)
ドリル学習の定着のために	・毎時間の英語テストの実施(単語・文法) ・文法練習ワークシートの作成
正確な英語・英語学習への関心意欲を高めるために	・週末英語ジャーナル ・英字本コーナー ・英字新聞コーナー ・英語スピーチ

6. 教員・生徒の変容

上記の取組を3年間行っている教員・生徒の変容について述べていく。

(1) 教員の変容

小学校・中学校の教員がお互いの教育(英語教育・英語活動)や文化に関する理解が向上した。また、小学校教員は英語活動への指導力・関心が向上し、中学校英語教員は、新たな目で中学校英語を見直すことができた。

(2) 生徒の変容

① 検査実施学年

	中学入学年度	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現小5生	25年度							
現小6生	24年度							
現中1生	23年度							
現中2生	22年度							
現中3生	21年度							
現高1生	20年度							
現高2生	19年度							

太枠が中学校在籍期間

黄色の部分が研究期間 (21-23年度)

**現在の中学3年生**  
この事業を受け、中学校で英語教育改善をスタートした学年

**現在の1,2年生**  
英語活動を計画的に5,6年生から受けて、入学してきた。

現在の高校 1 年生…中学校 2 年時より中学校での取組をスタート

現在の高校 2 年生…中学校 3 年生より中学校での取組をスタート

現在の中学 3 年生…中学 1 年生から 3 年生まで中学校の取組を計画的に受けた

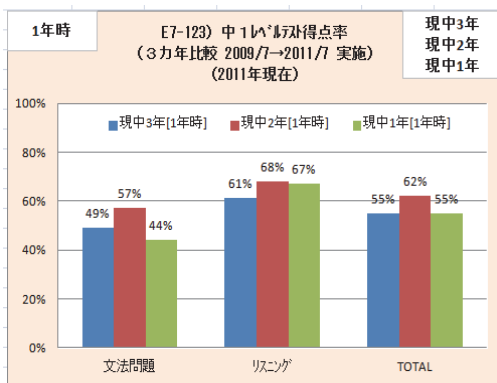
現在の 2 年生… 英語活動を計画的に 6 年生からうけて、中学校へ入学

現在の 1 年生… 英語活動を計画的に 5 年生からうけて、中学校へ入学

一表 2 検査実施学年一

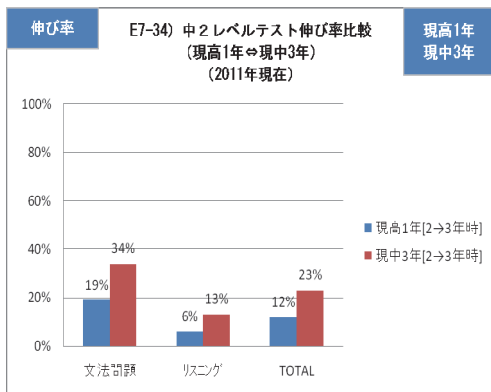
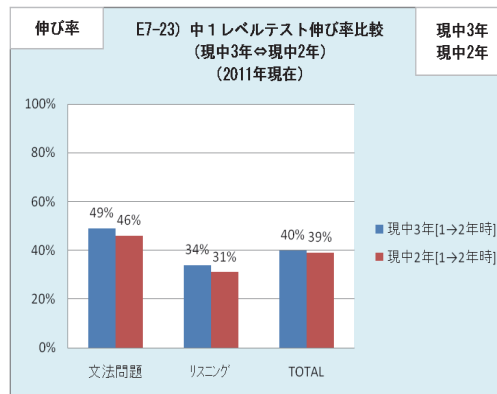
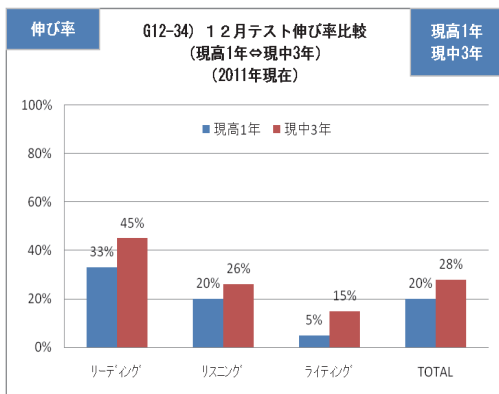
## ② テスト・アンケートの結果

- ・各学年ともリスニング力の得点が高い
- ・中学校で行う英語のテストの結果には英語活動の長短の影響は出ていない。

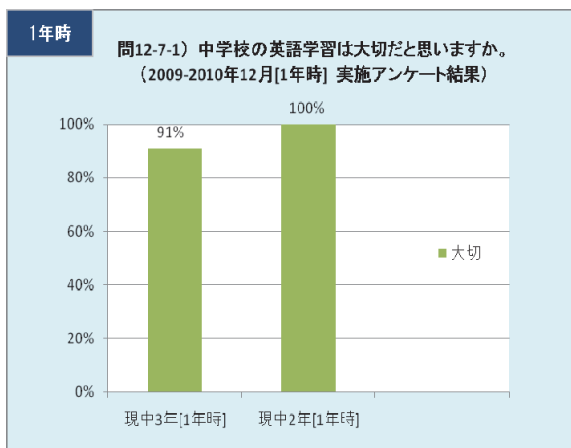


・現在の中学 3 年生は、入学後、順調に伸びている。学習成果を見るために伸び率で生徒の結果を比較(伸び率・同一テストを同じ学年で時間の経過後実施。どのくらい得点が伸びたかパーセンテージ表示したもの)

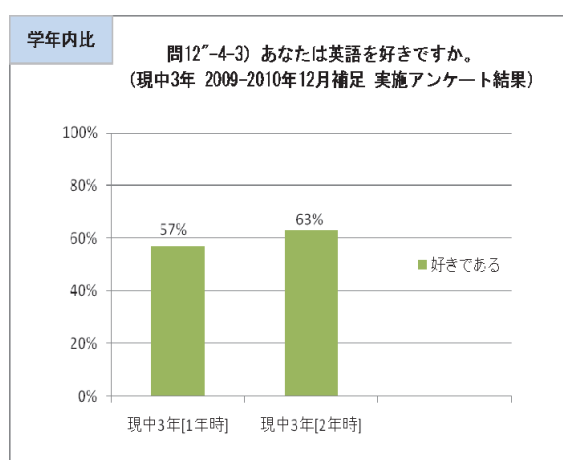
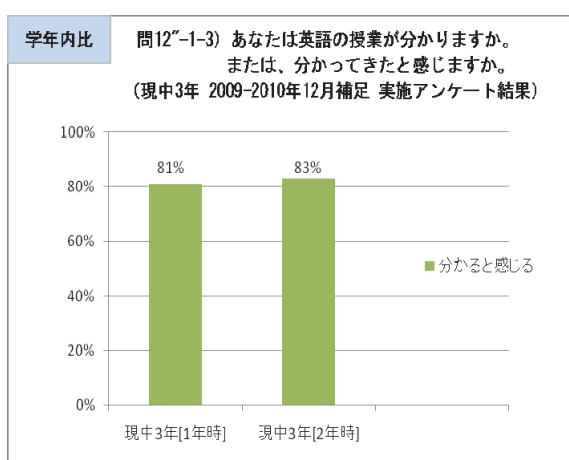
・地道な学習，ドリル学習が必要とされる文法問題や英作文において，高い伸び率が出ている。



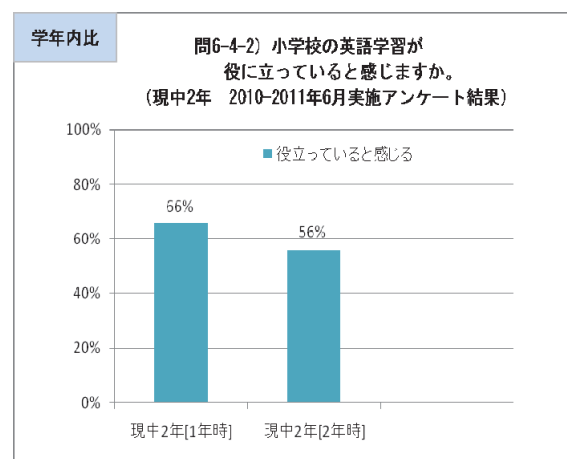
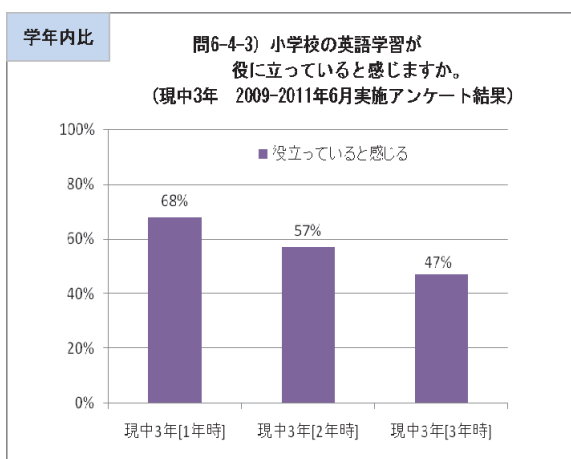
・小学校英語活動を体験した学年のほうが，中学校入学後，英語学習を大切であると考えられる割合が高い。



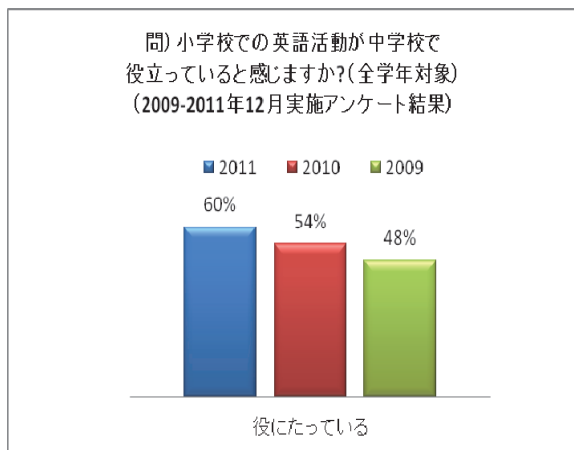
・英語の授業について「わかる」または「わかってきた」と感じる生徒の割合と「英語が好きである」という生徒の割合が学年が進むにつれて、少しずつではあるが、ともに増加傾向にある。



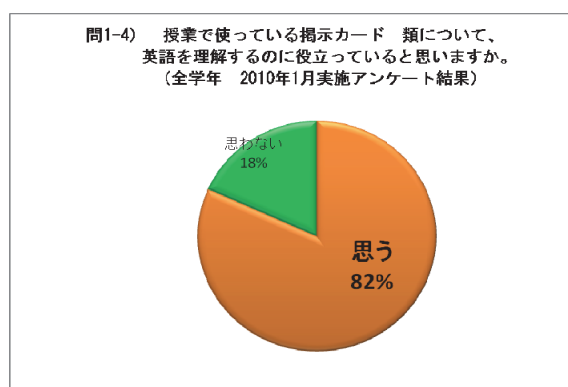
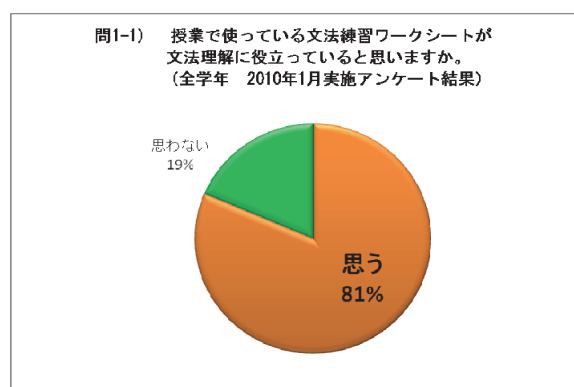
・中学校に入学後、「英語活動が役に立っている」と感じる割合は学年が進むにつれて、減少している。



・3カ年で比較すると、研究開始から次第に「英語活動が役に立つ」と考える割合が増加している。



・およそ 80%以上の生徒が工夫した教材が役に立つと感じていることが分かる。



生徒の中に、「小学校での「英語活動のたのしさ」と「中学校英語学習のたのしさ」に違いが出てきた。

生徒 A	<p>《小学校英語活動がたのしかったと答えた人に》</p> <p>Q. どうしてたのしかったですか？</p> <p>→ 「ALTと話しができてうれしかった。」</p> <p>→ 「あまり話さなかった友達とゲームしていたら仲良くなってよかった。」</p> <p>《中学校の英語がたのしいと答えた人に》</p> <p>Q. 中学校の英語がたのしい、好きの理由は？</p> <p>→ 「言いたいことがきちんと書けて、伝わったからうれしい。」</p> <p>→ 「テストの点があがったから好き。」</p> <p>→ 「スピーチが前よりか上手にできたから。」</p>
------	--

## 7. 考察

検査結果考察にあたり、本調査結果を、本事業の目的から3つの観点（①中学校での教育内容の改善②英語活動が英語教育に与える影響③本校区が立てた研究課題について）から考察を行う。

### （1）中学校での教育内容の改善

中学校で行った英語教育を改善するための取組は一定の効果はあったと考える。理由としては、以下の点があげられる。



- ・文法問題・英作文問題・長文問題など，ドリル学習・積み上げ学習がどうしても必要な分野の得点が向上している。
- ・現3年生の伸び率と中学生の「英語学習への考え方」「英語授業への評価」「英語への思い」を見てみると，中学校での取組は効果的であった。
- ・学習内容が難しくなる中で，中学1年から2年，3年へと進むにつれ，「英語が好きである」と感じる生徒や，「英語の授業が分かってきた」と感じる生徒が増加している。これは，中学校での英語学習がうまく行われていると考えられる。

#### (2) 英語活動が英語教育に与える影響

- ・小学校での英語活動は生徒のリスニング力向上に役立っていると考えられる。
- ・小学校英語活動は中学校での英語力（テスト結果）にすぐに目に見えた影響を与えることは少ない。
- ・中学校英語と小学校英語活動の連携を「学習する英語表現」を中心に考えるのは難しいと考える。「英語ノート」で使用される表現と中学校の教科書で使用される表現の対応表を作成した。（資料参照）その結果，小学校で使用される表現のほとんどは中学校1年生で使用されている。

#### (3) 本校区が立てた研究課題について

英語学習での理解力向上（テスト結果に伸びが見られること）や，英語に興味・関心を持たせるために取り組んだ教材への生徒の評価が高いこと，小・中で「英語がたのしい」理由に変化がでてきたこと，研究が進むにつれて，「小学校英語活動が役に立つ」と感じている割合が増加していることなどから，本校区が目標とした小・中の連携，「たのしい英語から確かな英語への転換」はある程度達成できたと考える。

## 8. おわりに

本実践研究では，小・中の「連携」という目標の下，本校区はあえて，「転換」という言葉を主題に使用した。発達段階に応じたコミュニケーション力を考えると，どうしても「転換」は必要で，うまく転換できるかが，連携の重要ポイントだと考えた。今回，ある程度「転換」はうまくいったと考える。調査・研究をして，見えてきた課題点としては，児童・生徒の変化を知るためのアンケート作成の難しさや，小・中の連携の結果を数値で表すことの難しさがあげられる。例えば，生徒は，小学校で体験した表現が中学校でも使われることが「英語活動が役に立つ」ことであると考えている。しかし，中学生になって，学習する内容が難しくなるにも関わらず，学年が進むにつれ，「英語が好きである」「英語学習がわかる」と考える生徒の割合が増加しているという現状には，中学校の取組のみならず，小学校英語活動の体験が「英語でコミュニケーションを取りたい」という思いを強く継続させているのではとも考えられる。しかし，これらについて数値を用いて述べることは困難であった。

今回はアンケートやテストの結果を分析する中で，生徒の現在の弱点や意識を把握し，それらへの対応を考えるという方法をとった。取組結果を確認することで，教師，生徒ともに研究・学習への意欲が継続された。これからも生徒をよく見つめ，実態把握をしながら，継続的に生徒の意欲を高める努力をしていきたいと思う。

(資料：教科書対応表)

学年	テキスト タイトル	単元	Part	頁	使用教科書 (英語ノート)	単元 No	英語ノート	指導項目					
1	Hello, English!	教室で… 747アハ外	あいさつ 単語	2	How are you? アハハハで聞こう	1	ジェスチャーをしよう	あいさつ					
				6	a ~ z	2	アルファベットで聞こう	アルファベット(大文字) アルファベット(小文字)					
	ようこそ、グリーン先生	1	あいさつ あいさつ	11 22	My name is Ken. Nice to meet you.	1	世界のくにちには、を知ろう	名前の言い方					
					2	Nice to meet you.	1	世界のくにちには、を知ろう	あいさつ				
	グリーン先生の初授業	学校で	WB1	22	Five.	1	数字(単語)	数字(単語)					
				24	Hello.	1	世界のくにちには、を知ろう	あいさつ					
				24	I like apples.	4	自己紹介をしよう	一般動詞(肯定文)					
				32	I study Japanese.	1	時間を作ろう	一般動詞(肯定文)					
				24	I go to bed.	2	自分の一日を紹介しよう	驚く					
				26	Do you like apples?	4	自己紹介をしよう	一般動詞(疑問文)					
				26	Yes, I do. / No, I don't.	4	自己紹介をしよう	一般動詞(応答)					
				28	I don't like blue.	1	いろいろな表情を知ろう	一般動詞(否定文)					
				32	What's your name?	1	世界のくにちには、を知ろう	Whatを使った文					
				32	What's this?	1	クイズ大発表しよう	何(What is …?)の文					
	日本大好き	日本大好き	1	32	It's a pencil.	7	クイズ大発表しよう	Whatの文(応答)					
				32	What's this?	2	アルファベットで聞こう	何(What is …?)の文					
				32	It's ~	2	アルファベットで聞こう	何(What is …?)の文					
				32	What's this?	2	いろいろな文字があることを知ろう	何(What is …?)の文					
				34	I'm happy.	1	ジェスチャーをしよう	be+形容詞					
				34	I'm fine.	2	ジェスチャーをしよう	be+形容詞					
				3	What do you want?	1	外來語を知ろう	何を(What)					
SPI				Thank you.	1	自己紹介をしよう	何を(What)						
41				Thank you.	4	自己紹介をしよう	お礼を言う						
42				Please, please.	6	外來語を知ろう	外來語を知る						
ビクニックに行こう	カナダの 学校	2	44	How many?	1	数を数えよう	数のたずね方						
			46	Let's go.	2	行ってみよう(Let's…の文)	行こう						
			48	Let's go.	2	行ってみよう(Let's…の文)	行こう						
			60	What time do you get up?	2	自分の一日を紹介しよう	曜日 (月~金)						
			60	At 7:00.	2	自分の一日を紹介しよう	何時? 何時です?						
			66	Where is the flower shop?	2	道案内をしよう	どこ?						
			76	Go straight.	2	道案内をしよう	Where…?の文						
			76	Stop.	4	道案内をしよう	…しない						
			76	Stop.	2	道案内をしよう	…						
			クリスマスがやってきました	クリスマスがやってきました	MP2	79	What do you want?	1	外來語を知ろう	何を(What)			
82	I can swim.	2				できることを紹介しよう	canの肯定文						
82	I can't swim.	2				できることを紹介しよう	…できない						
84	Can you swim?	4				できることを紹介しよう	canの疑問文(可能・能力)						
84	Yes, I can. / No, I can't.	2				できることを紹介しよう	canの応答						
86	When is your birthday?	2				友達の誕生日を知ろう	いつ(When…?の文)						
88	My birthday is March 9 <sup>th</sup> .	2				友達の誕生日を知ろう	月日(単語)						
121	Please help me.	1				外來語を知ろう	重箱(単語)						
13	I want to go Italy.	2				オランダ語を聞こう	どうぞ…して(Please…の文)						
ナイアガラの滝	ナイアガラの滝	0				23	What do you want to be?	2	行ってみよう(将来を紹介しよう)	不定詞(名詞的用法)			
			23	I want to be a teacher.	2	将来の夢を紹介しよう	…に行きたい						
			23	I hope that…	9	将来の夢を知ろう	…になりたい(want to…の文)						
			51	I hope that…	1	将来の夢を知ろう	…になりたい						
			A Park or a Parking Area?	A Park or a Parking Area?	5	D	What would you like?	1	ジェスチャーをしよう	that節			
										3	SP2	I'd like juice.	丁寧な表現